

第2913回例会 令和5年11月30日(木)

出席委員会委員長	池田 榮三
会員総数	20名
本日の出席者(免除者)	8名(2名)
本日の出席率	44.4%

会長あいさつ



会長 鳥居万里 君

最近結構寒くなってきましたので、体調管理にはお気を付けてください。ロータリー活動も中旬を迎えてそれぞれのお立場で活動して見えると思います。

ガバナー補佐杯ゴルフコンペ、米山奨学生研修会、7Cゴルフコンペと行われました。RI国際大会シンガポール行きのご案内が参りました。無理のないところでよろしくお願いいたします。

西尾市全編ロケの市制70周年記念ドラマ応援企画として来年1月2日に東海テレビで放送されます「江戸からきたキラくん」と題して西尾の魅力を織り交ぜた完全オリジナル85分です。協賛のご案内が来ております。

先月、私はポールハリスフェロー(PHF)寄付をさせていただきました。10月になりますが、ロータリーレートは149円でした。非常に円安になりかなり負担となります。ロータリー財団も日本の場合はかなりこの円安が不利になるのではないかと心配をするところではありますが、この辺の状況を教えて頂ければと思います。

今週のスマイル

親睦委員 尾崎三枝子 君

佐野彰彦君(地区資金推進委員長 刈谷 RC)

本日卓話をさせていただきます。よろしくお願ひ致します。

鳥居万里君 地区資金推進委員長 佐野彰彦君、本日は卓話よろしくお願ひ致します。

神谷 林君 佐野君の卓話、楽しみに聞かせてもらいます。

山下民義君 地区資金推進委員長 佐野さん、本日の卓話楽しみです。

池田榮三君 佐野彰彦君、本日の卓話よろしくお願ひ致します。

田中三千雄君 佐野彰彦君よろしくお願ひします。

尾崎三枝子君 地区資金推進委員会の佐野彰彦君本日はよろしくお願ひ致します。

7件 13,000円

本日の卓話

「財団をクラブ活性化に」

資金推進委員会 委員長 佐野彰彦 君



2760地区ロータリー財団資金推進委員会委員長の佐野彰彦です。刈谷RC所属です。

本日は、ロータリー財団月間あたり、皆さまからの大切なご寄付がどのように使用されているかを説明し、ロータリー

財団へのご理解を深めていただけるよう卓話をさせていただきます。どうぞ宜しくお願ひ致します。

1917年6月18日、ヨーロッパで戦火が荒れ狂うころ、米国ジョージア州アトランタで開かれた第8回ロータリー年次大会で、「世界でよいことをする」ための基金の設置を、アーチ・クラフ会長が提案しました。その1ヶ月後に寄せられた、26ドル50セントの寄付で始まった基金は、1928年に正式に「ロータリー財団」と命名され、管理委員会が創設されました。

国際ロータリーは、皆さまの会費で運営していますが、ロータリー財団は、皆さまからの寄付のみで運営・活動をしています。

皆様、今年度の国際ロータリーの人頭分担金(=会費)の金額はご存じですか?今年度は75ドル、会員120万人で9,000万ドルになります。来年2024-25年度は78.5ドル、再来年2025-26年度は82ドル、と、どんどん上がってきています。

では、ロータリー財団は?繰り返しになりますが、ロータリー財団の財源は世界中で集められた皆様からのご寄付です。今年度、ロータリー財団管理委員会はこれまでで最高額となる5億ドルを寄付目標に設定しました。内訳は、補助金の資金源となる年次基金は1億5,000万ドル、ポリオ根絶には5,000万ドル、それにビル&メリンダ・ゲイツ財団からの1億ドルの寄付が上乗せされます。そして恒久基金で1億4,000万ドル、その他の現金寄付等で6,000万ドル、の合計5億ドルです。

皆様からのご寄付は、すべて、財団本部で管理しています。昨年2022-23年度は貴クラブより年次基金おひとりあたり195.76ドル、ポリオプラスおひとりあたり34.50ドル、恒久基金0ドルをご寄付いただきました。ご支援ありがとうございました。

本年度の地区のロータリー財団寄付目標は、年次基金おひとり150ドル以上、ポリオプラスおひとり30ドル以上、恒久基金は、クラブでベネファクター1名、または、1,000ドル以上です。

昨年度、恒久基金に寄付されたクラブは35クラブありました。

大口寄付者は2名、ポール・ハリス・ソサエティ

(PHS) は、昨年度 23 名が入会され、現在 50 名のメンバーがいっぱいいます。

「大口寄付者」とは、一括 10,000 ドル以上を寄付される方です。寄付分類は問いません。

「ポール・ハリス・ソサエティ」とは、毎年 1,000 ドル以上を、年次基金またはポリオプラス基金に寄付することを約束された方を認証するためのプログラムです。

シェアシステムの説明をしたいと思います。要は、財団に集まった寄付をロータリアンの奉仕活動を行う時には、みんなでシェアをしましょう、ということです。これによって大きな事業も可能になります。

皆様からのご寄付は、3 年間投資され、その収益が財団の運営に活用されます。ここに「3 年前の」と書いてあるのは、そのことで、プラスの時もあればマイナスの時もありますが、平均するとだいたい 6% くらいの利益を上げています。こうした資金の 50% が地区財団活動資金 (DDF)、残りの 50% が国際財団活動資金 (WF) となります。これは、この金額がそのまま戻ってくる訳ではなく、使う権利がある、ということです。そのため、地区補助金については、地区は 1 ローター一年度につき 1 回申請を提出することができ、残金はすべてグローバル補助金に充当します。昨年度の財団寄付額一覧表をご覧ください。毎年、当地区では年次基金寄付を約 80 万ドル集めていますが、昨年度は 70 万ドルでした。したがって、再来年 2025-26 年度は、使えるお金が減ることになります。

例として、昨年 2022-23 年度の地区財団活動資金 (DDF) の使われ方をご説明します。

3 年前 2019-20 年度の年次基金寄付の 50% の 391,588.10 ドル、恒久基金の使用可能収益の 50% の 44,318.03 ドル、合計 435,906.13 ドルが財源となりました。ここから、パキスタンの洪水支援へ 10,000 ドル ポリオプラスへ 55,000 ドルを寄贈しています。地区補助金は 56 クラブより申請があり、これが 134,761 ドル、グローバル補助金による奉仕事業に 5 件、あわせて 110,300 ドル、グローバル補助金奨学生に 40,000 ドルを拠出しています。残金が 86,000 ドルほどありますが、後ほど説明するグローバル補助金奨学生の 2 人分と理解いただければよいと思います。

また、本来なら、VTT 事業も行おうところですが、2022-23 年度もコロナ感染拡大の影響により実施することができませんでした。ちなみに、今年度の地区補助金申請額は、188,209 ドル、66 クラブから申請がありました。金額的に 5 万ドル増えています。グローバル補助金は、現在、名古屋守山 RC と名古屋清須 RC が申請書を作成中で、名古屋空港 RC、岡崎 RC、岡崎南 RC が申請に向けての準備をされています。さらに、詳しい内容はあとでご説明しますが、VTT 事業も行います。少しずつグローバル補助金事業に取り組むクラブが増えてきていますので、少しタイトになってきています。

シェアシステムの資金モデルが 2021 年 7 月に変更となり、来年 2024-25 年度から、年次基金寄付の 5% が、運営費として国際財団活動資金 (WF) と地区財団活動資金 (DDF) から均等に差し引かれることになりました。これによって、これまで「25%ルール」と言っていたのですが、地区補助金申請可能額は「23.75%」となります。

毎年、このように卓話訪問をさせていただいていますが、地区の財団委員が訪問して卓話させていただくのは、今年が最後です。来年度から、各クラブの財団委員長が、財団セミナー等で聞かれた話をクラブの皆様にしかりお伝えする機会として、11 月の財団月間を利用していただきたいと考えました。11 月の財団月間卓話のために、2024 年 4 月 7 日 地区研修・協議会、2024 年 8 月 2 日 財団セミナーに加え、10 月頃に名古屋地区・西三河地区・豊橋地区それぞれ 1 回ずつ相談会を設けたいと考えています。ご出席をお待ちしております。

さて、2021-22 年度のロータリー財団の支出はご覧のとおりです。

支出の 89% が、各プログラムとその運営費に使われています。ポリオに一番お金を使っています。ここからは、一番多く使われている「ポリオプラス」についてお話しします。

ポリオはエジプト時代の石板にも片足の細った患者らしき姿が描かれており、ヨーロッパでは古くから知られる感染症でした。

日本では有史以来の文献に記述がなく、明治時代以降に海外から入ってきた疾患であるとの説が有力でしたが、日本の縄文時代の入江遺跡の人骨からポリオの痕跡がみられたとの報告もあり、その間の経過に関しては実はよくわかっていません。

しかし、1940 年代頃から全国各地で流行がみられ、1960 年には北海道を中心に 5,000 名以上の患者が発生する大流行となりました。そのため、1961 年に生ポリオワクチンを緊急輸入し、一斉に投与することによって流行は急速に終息しました。

ポリオウイルスは、人の口の中に入って、咽頭や腸の中で増えることで感染します。増えたポリオウイルスは、再び便の中に排泄され、この便を介してさらに他の人に感染します。

神経系を侵し、場合によっては死に至る病ですが、現在に至るまで明確な治療法はありませんが、ワクチン接種によりポリオの発症が予防できることはわかっています。そのためワクチン接種が推奨されています。

ロータリーがポリオの根絶を目標に定めた時には、ポリオの根絶などは夢物語だと思われていました。しかし、1985 年から「ポリオプラス」プログラムを開始し、1988 年には WHO と共に「世界ポリオ根絶推進活動」を立ち上げ、ポリオのない世界のために、先頭に立って活動してきました。

こうした活動が実を結び、1988年に35万人いた感染者ご覧のように激減したわけです。

皆さん、毎月発行されている財団室NEWSは読んでいただけていますか？

ここには、「ポリオウイルスによる症例数」が記載されています。その表を大きく書き表したのがこちらです。

ポリオの常在国はパキスタンとアフガニスタンの2カ国となり、これは直近のポリオの罹患者数ですが、今年に入ってからゼロとなっています。ポリオは我々には関係ない病気なのではないでしょうか？そんなことはありません。

これは昨年7月の新聞記事です。

ニューヨークとロンドンで、下水からポリオウイルスが検出され、アメリカでポリオ罹患後の神経麻痺を認めた患者が発生し、8月にはロンドンでポリオワクチンのブースター接種が行われました。これらは、ポリオがまだ『過去の病気ではない』ことを意味しています。すなわち、私たちの子供や孫たちも、今後ポリオに罹患する危険性がゼロはでないということなのです。

発生者が激減しても多大な寄付が必要な訳は、ひとりでも感染者がいたら、新生児4億人に必ず予防接種しなければいけません。ポリオワクチン予防接種はすべての国で行っています。

この危険性を限りなくゼロに近づけるためには、世界中でポリオの野生株を根絶させることが一番重要なことです。これが達成できない限り、世界中でポリオワクチンを打ち続けていく必要があり、毎年このために、各国で、あるいはロータリーから多額の資金が拠出されているのです。ウイルスに国境はありません。対策しなければ、10年間で20万人が罹患します。また、ワクチンは冷やして届けなければいけません。これをコールドチェーンと呼ばれ、ずっと維持しなければなりません。これは、COVID19のワクチン配送でも役に立ちました。紛争地域でのワクチンデリバリーには、インフラが整っていないため、通常よりも多額の資金が必要です。ウクライナの接種率が紛争で低下しました。

では、もし根絶が達成されたらどうなるのでしょうか？日本では、1回あたり約5,000円×4回、子ども1人に約20,000円、毎年160億円ものお金がポリオワクチンのために費やされています。ポリオが根絶され、この資金が不要となれば、例えば子育て支援、あるいは出産費用の助成金など、さまざまに振り分けことができます。

たやすく根絶できるであろうと考えていましたが、1979年のフィリピンにおける事業から関わり、すでに35年以上にわたり活動を行ってきており、資金も22億ドル以上かけてきました。ポリオが根絶されれば、人類にとってこれ以上ない貢献となります。毎年ロータリーでポリオに使う1億5,000万ドルがフリー

になり、日本では、ポリオ不活化ワクチンに使う160億円が不要になります。

来年2024-25年度は、10月24日のポリオデーに、ポリオ根絶チャリティーゴルフコンペが行われますので、奮ってご参加下さい。本年度は10月27日に豊田カントリークラブで開催され115名の方が参加され約60万円のご寄付を集めることができました。

続きまして、地区補助金についてお話したいと思います。地区補助金は、地元や海外の地域社会のニーズに取り組むための、比較的規模の小さい、短期的な活動を支援する補助金です。

先ほども説明しました通り、来年2024-25年度は、2021-22年度の年次基金寄付額の23.75%が補助金申請可能額になります。クラブの拠出金は0でも構いません。

申請要件としては、ロータリー財団の使命に沿っていること、ロータリー会員が積極的に参加することが大切です。

特定の人、団体、地域社会に対する継続的または過度の支援、募金活動、ロータリー行事に関連する経費、受益者や協力団体への使途無指定の現金寄付等々、補助金を受領する活動では、これらを行うことはできません。この事に注意して計画を立ててください。詳細は『地区補助金 授与と受諾の条件』をよくお読みください。

また、ローターアクトクラブもロータリーの一員として、補助金が利用できるようになりました。ただ、ローターアクトクラブは3年前に寄付をしていません。提唱クラブの「申請可能額」の一部を使用していただく事になります。提唱クラブと相談して下さい。

2023年12月、次年度地区補助金事業の予定に関するアンケートを実施します。より大きな事業をやりたいと思うクラブには、使わないクラブの補助金枠を使えるようにしたいと思います。ただし、これは『共同事業』に限ります。委員会からはアンケート結果による情報はお伝えしますが、マッチングについては関与いたしません。お早めに2024-25年度の事業構想を練ってください。

続きましてグローバル補助金についてです。2ヶ国以上のクラブ・地区が、7つの重点分野に該当し、持続可能かつ測定可能な成果をもたらす、大規模な国際的活動を支援する補助金です。

申請要件は、地区補助金と同様に、ロータリー財団の使命に沿っていること、ロータリー会員が積極的に参加することに加えて、2カ国以上のクラブ・地区が参加すること、最低予算3万ドル以上であること、持続可能性を担保すること、測定可能であることです。このグローバル補助金の活動では、①受益社会の人びとがサポートしていること、②ロータリー会員が主導すること、③測定可能な結果、数値化して残すこと、④補助金を使い尽くされた後も地域社会が自力で持続

していけるものであることが条件になります。

クラブからの現金拠出の8倍までのDDFを申請することが可能です。上限は4万ドルです。クラブ理事会を通したうえで申請をしていただくために、このようなシステムにしました。My ROTARYでの申請手続きを始める前に、必ず地区ロータリー財団委員会にDDF申請書を提出し、財団委員長との面談を行ってください。

グローバル補助金事業のひとつ、職業研修チーム(VTT)についてです。VTTとは、Vocational Training Teamの略で、専門家チームを海外に派遣して研修を行う、または、専門家チームを国内に招聘して研修を行う、職業奉仕事業であり国際奉仕事業です。

今年度、3年ぶりにVTTを行います。フィリピンの南、ミンダナオ島という大きな島にあります、ダバオという町が中心の3860地区と連携して、同地区より要請のあった心臓外科手術の技術指導を行う予定です。現在ロータリー財団の承認を待っているところです。ここがダバオ、フィリピンの最南端ですね。12月10日に3860地区の医療チームが来日し、研修を行います。来日した際には、皆さま応援しに来てください。

グローバル補助金奨学生についてです。グローバル補助金の海外の大学院で、ロータリーの重点分野のいずれかに該当する分野を専攻する方を対象とした、返済不要の奨学金を給付するプログラムです。以前はどのような分野でも奨学金を申請することができましたが、未来の夢計画導入によって、ロータリーの重点分野に限定されました。実務経験は不要です。皆様ご存じの日本人初の国連難民高等弁務官をつとめられた、緒方貞子さんや、軍縮担当国連事務次長の中満泉さんも財団奨学生でした。

8月、9月、10月のいずれかに留学を開始する奨学金の申請は、6月30日までに財団に提出しなければなりません。奨学金候補者が出発する少なくとも3ヶ月前までに申請書を提出することが必要です。一番重要なのは、受入国側のクラブを探すことです。これが本当に大変で、毎年、相当な時間を要します。平和フェロシップについてです。平和を愛する人達のためのネットワークを構築するためのプログラムです。ロータリー平和センターは7つあり、8つの大学に設置されています。

このうち、5つのセンターでは、平和と開発に関する修士号取得プログラムを提供しています。デューク大学およびノースカロライナ大学チャペルヒル校(合同で一つの平和センターを運営)(米国)、国際基督教大学(日本)、ブラッドフォード大学(英国)、クイーンズランド大学(オーストラリア)、ウプサラ大学(スウェーデン)。マケレレ大学(ウガンダ)の平和センターでは、平和と開発に関する準修士号を提供しています。オンライン学習、教室での授業、社会変革イニシアチブを合わせた1年間のプログラムが実施されます。マケレレ

大学の開設にあたっては、2760地区が大きく関与しています。

タイのチュラロンコーン大学の平和センター2023年8月で閉鎖となりました。新たに、トルコ・イスタンブールのバチエシエヒシュ大学が、2024年2月に最初の申請を開始し、2025年1月までに第一期生を受け入れる予定です。

ロータリー平和フェロの申請には、3年以上の実務経験が必要です。

平和フェロ、グローバル補助金奨学生とも、優秀な候補者を探す上で重要な役割を担うのがロータリアンです。素晴らしい人材の推薦にどうぞご協力ください。

先ほども説明した財団の資金についてです。2021-22年度の一般管理等含めたロータリー財団の支出は3億3,000万ドルでした。そのうちの89%、2億9400万ドルがプログラム補助金と運営費に使用されました。他の団体では60%から70%であることと比べると、いかに大きく事業費に回しているかがわかります。

ロータリー財団は、2023年、米国の慈善団体の格付けを行う独立機関であるチャリティーナビゲーターから、15年連続で最高の四つ星評価を受けました。この評価は、ロータリー財団が透明性を重視し、責任ある管理を行っていることを認められたことによるものです。

2023-24年度の地区の財団寄付目標は、年次基金寄付お一人あたり150ドル以上、ポリオプラス寄付お一人あたり30ドル以上をお願いしております。ポリオプラス寄付では5000万ドル集まれば、ゲイツ財団から1億ドル提供されます。

リーフレットをご覧ください。2023-24年度は、ポール・ハリス・ソサエティ(PHS)、ポリオプラス・ソサエティ(PPS)のクラブ会員5%入会を推進します。ポール・ハリス・ソサエティとポリオプラスソサエティともに貴クラブは0名となっています。

8月4日に晩さん会を行いました。次年度は、補助金管理セミナーの後に開催しようと計画しています。PHSメンバーの皆様には是非ご参加いただきたいと思えます。

恒久基金は、クラブで新規ベネファクターを1名以上、または1,000ドル以上、大口寄付は地区で5名以上が目標です。

恒久基金とは、ロータリー財団の根幹を支える資金です。草花を育てるときに、『毎日与える水』が年次基金寄付としたら、いざという時に活用するために『貯めておく水』が恒久基金寄付。恒久基金は投資され、運用益のみ使用します。

ロータリーのクレジットカードご利用のすすめです。リーフレットをご覧ください。例えば、カードで2万円のショッピングをすると、0.3%=60円自動寄付されます。

2022-23 ダイナースクラブカード利用実績です。クラブカード 106,626,000 円、委員会カード 4,123,000 円、地区カード 9,461,000 円、地区合計で 120,210,000 円分利用されています。ちなみに日本全体では、2,573,270,000 円利用されています。入会費・年会費は無料です。

このクラブカードを「例会費」、「人頭分担金」、「ロータリー財団寄付」の支払い等、必ずかかる経費に対して、是非使っていただきたいと思います。

また、クラブ運営のためのカードの他にもう一枚、地区補助金事業用として、ネット等での支払いに利用できる「地区補助金専用口座に紐づけしたカード」も作成していただければと思います。

最後に、クラブの活性化に、ロータリー財団を是非ご活用ください。そして、財団への寄付金がどのように使われているかご理解頂き、会員おひとりにつき、年次基金に 150 ドル以上、ポリオプラスに 30 ドル以上、さらに、1 クラブにつき、恒久基金に 1,000 ドル以上をご寄付くださいますよう、何卒、宜しくお願い申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

11月11日(土)12日(日)に地区大会が開催され、懇親会を龍神みつやまにて行いました。



今週の献立

【福長】

